

# クロム活用シート

## 1年 図画工作科

1. 単元名『おしらせします！にっこりニュース』
2. 本時の評価規準
  - ・クレヨンやパスの扱いに十分に慣れ、表したいことをもとに表し方を工夫して表している。【知識・技能】
3. 指導計画

	学習活動	ICT 活用場面
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会で行った玉入れの場面を思い出す。</li> <li>・玉入れしている様子が伝えるには、どの瞬間を切り取ってお知らせするとよいか考える。</li> </ul>	<b>AI</b> 教師の写真を提示し、ポーズや写真の角度について考えた。
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を見ながら玉入れをする自分の姿を絵に描いていく。</li> <li>(顔の向き、大きさ、関節を意識した身体など、イラストではなく、実物の等身に近い絵の作成)</li> </ul>	<b>BI</b> 絵にする場面のポーズを撮り、ペアで写真を撮り合う。 撮った写真を見ながら、絵に描いていく。
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の人と描き上げた作品を見せ合う。</li> <li>・良い点を見つけて伝え合う。</li> </ul>	

### 4. 情報活用能力（情報活用能力体系表より）

I	知識及び技能	2	問題解決・探究における情報活用の方法の理解
		①	情報収集、整理、分析、表現、発信の理解
		f	情報の大体を捉える方法

### AI 教師による教材の提示

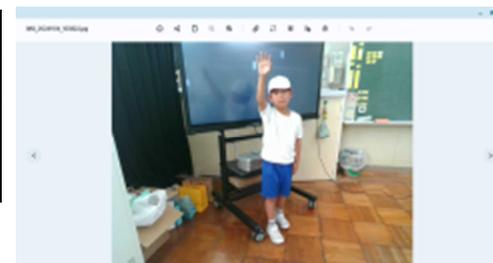
使用するアプリ等 「カメラ」「ファイル」

	活用の流れ
①	カメラアプリで教師の姿を撮影する。
②	ファイルから写真を開き、全身が入っているか、ポーズは適切かどうかを確認する。

### BI 個に応じる学習

使用するアプリ等 「カメラ」「ファイル」

	活用の流れ
①	自身の姿を撮影する。
②	ファイルから写真を開く。 写真を見ながら絵を描く。



### 活用の効果

自分の姿を描くとなると、人の姿が具体的にイメージできないので、どうしてもイラスト風やデフォルメされた絵になりがちである。今回、自分の姿を撮影して客観的に見ることで、関節や体の大きさに対する顔の大きさなどをよりリアルに近い形で描くことができた。児童によっては描くのが難しい角度だった場合もあるが、画像を拡大しながら画像に忠実であろうとする姿勢がみられた。